

岐阜県経済の現状



平成26年5月分
岐阜県商工労働部

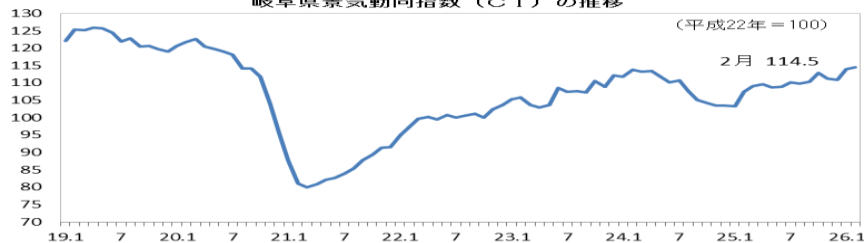
※企業等へのヒアリングは5月28日～30日を中心に実施し、6月9日に作成。

景気動向・製造業

○2月の景気動向指数(CI、一致指数)は114.5と前月より0.6ポイント上昇。県内中小企業の4月の景況感(好転-悪化)はマイナス12であった。

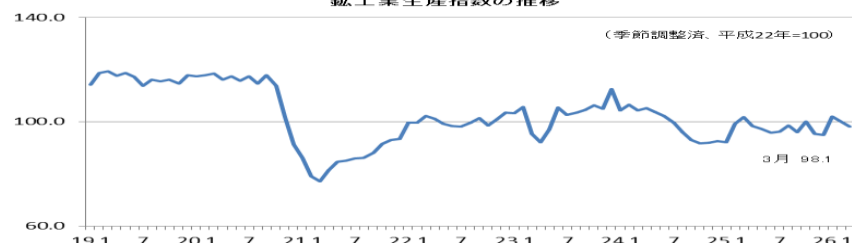
○3月の鉱工業生産指数は、2.0ポイント減の98.1となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。

岐阜県景気動向指数(CI)の推移



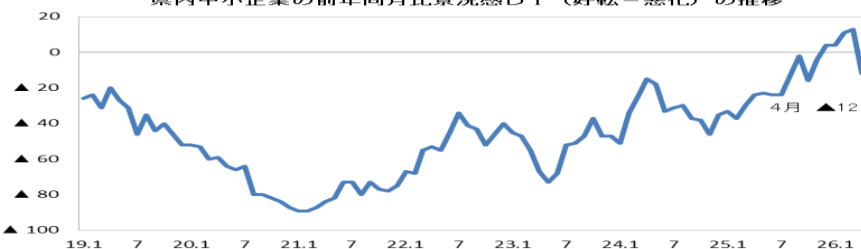
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」

鉱工業生産指数の推移



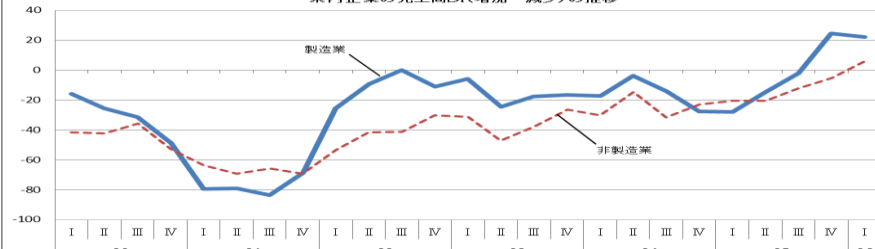
資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

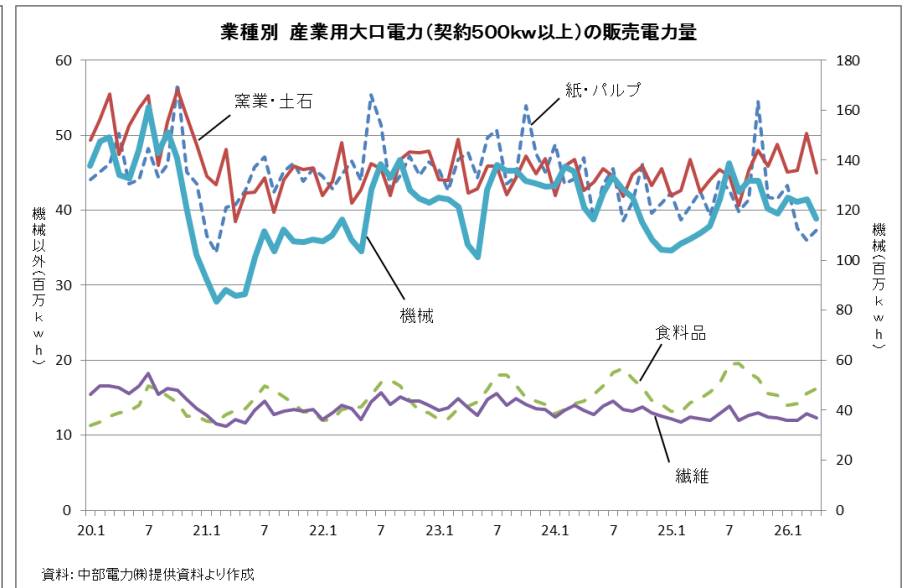
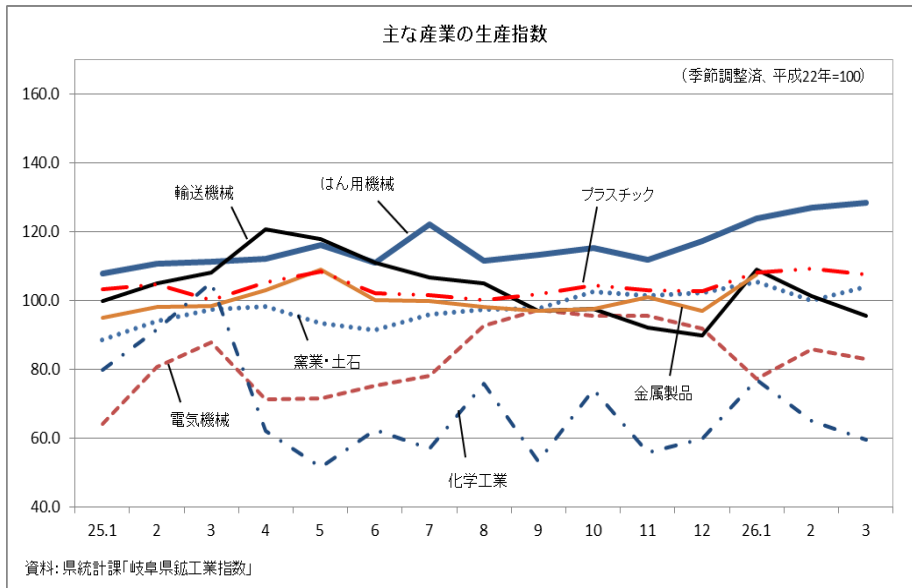
現場の動き

- ◆受注量、売上額ともに、対前年同月比、対前月比ともに増加。2014年度は引き続き好調な受注(海外向け)。
- ◆受注量については、先月と比べて横ばいであるが依然好調である。
- ◆7月以降の生産台数(トヨタ)は増産傾向にある。(以上、輸送用機械)
- ◆回復傾向であるが、リーマンショック以前の80%程度。8~9月に受注が控えている。(電気機器)
- ◆受注量は対前月比は変わらず、対前年同月比は増加。売上はともに増加。昨年同期より国内受注が回復傾向。
- ◆受注を多く抱えており忙しい。受注を受けられない場合もある。(以上、生産用機械)
- ◆5月の受注実績は、4月までよりも若干増えた。(はん用機械)
- ◆年度が明けてもますます受注は増えている。5月も受注が増えている。(金属製品)
- ◆出荷量は対前月で横ばいの状況。(プラスチック)

製造業-2(業種別)

○3月の生産指数は、窯業・土石、はん用機械が上昇したものの、化学工業、輸送機械、電気機械、プラスチック、金属製品は減少した。

○3月の工場向け電力販売量は、紙・パルプを除くすべての産業で、前年、前月ともに上回った。

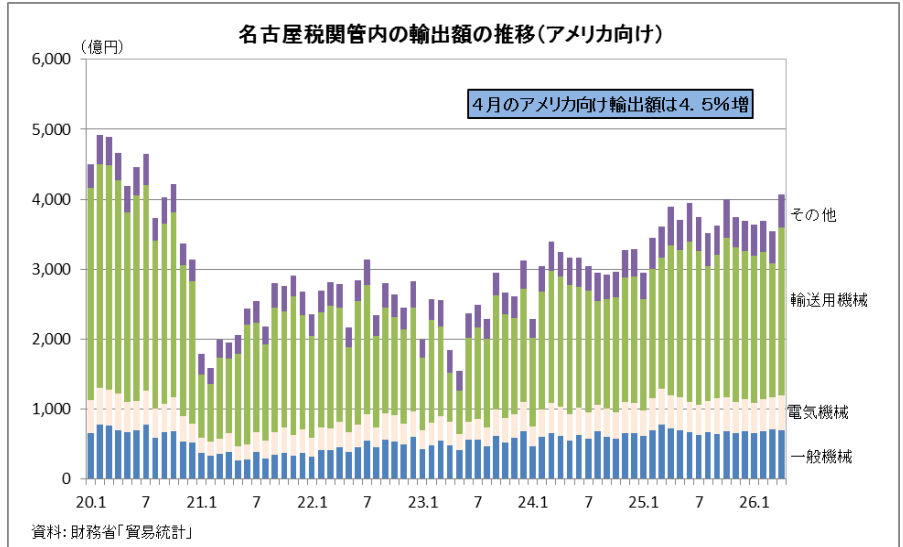
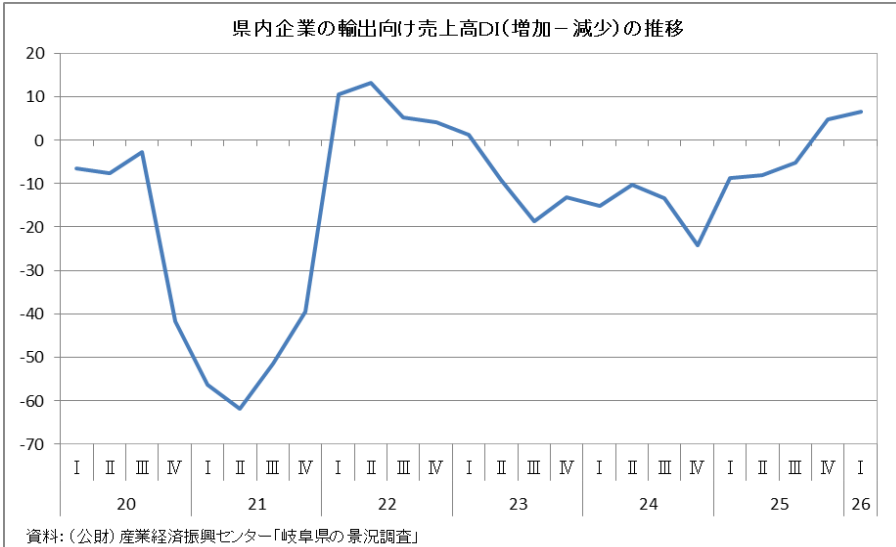
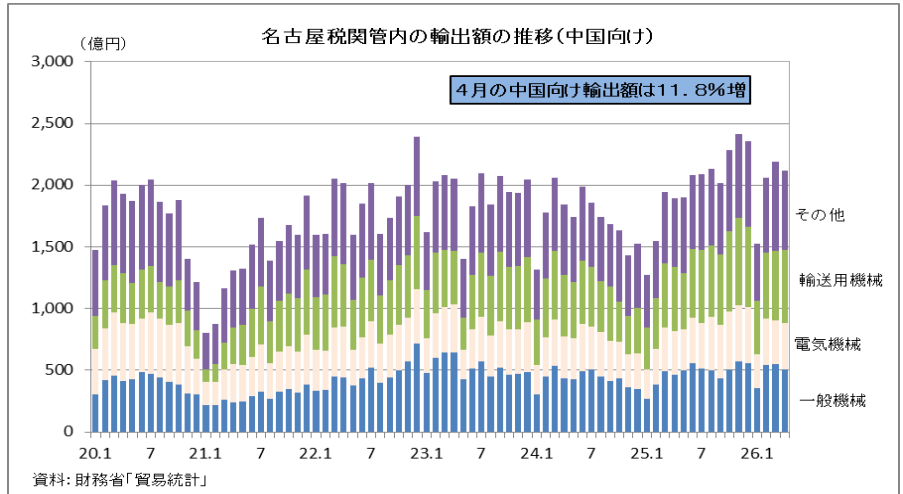
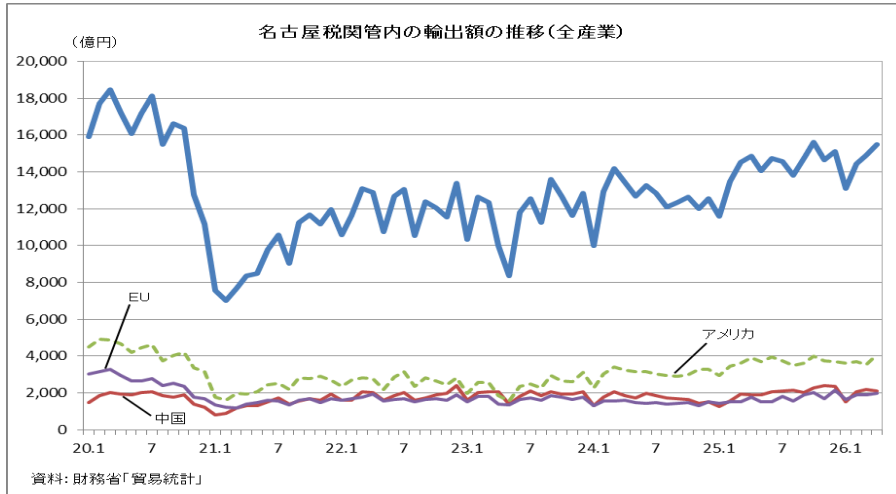


現場の動き

- ◆消費増税が売り上げに影響した感覚はないが、衣料消費全体の減少が続いている。(アパレル)
- ◆国内向けは総じて昨年並み、海外向けは前年度と比べると増加している。
- ◆売上、受注とも減少傾向にある。(以上、陶磁器)
- ◆ここ数ヶ月間、受注状況や売上に大きな変化はない。(刃物)
- ◆売上等、1年前と大きな変動はなく、若干割れている程度。(食品加工)
- ◆景気については昨年の中頃とあまり変わらない。(紙)
- ◆4月以降も受注は好調。
- ◆売上は対前年比では少し落ち込んでいるが、6~7月には戻ると見込んでいる。(以上、木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 4月の輸出額は15,480億円と前年同月比4.2%増と16ヶ月連続で前年を上回った。
- 中国向け輸出は全産業において増加し、前年同月比11.8%増と13ヶ月連続で前年を上回った。
- アメリカ向け輸出は一般機械が減少したものの、一般機械を除く全ての産業で増加し、前年同月比4.5%増となった。

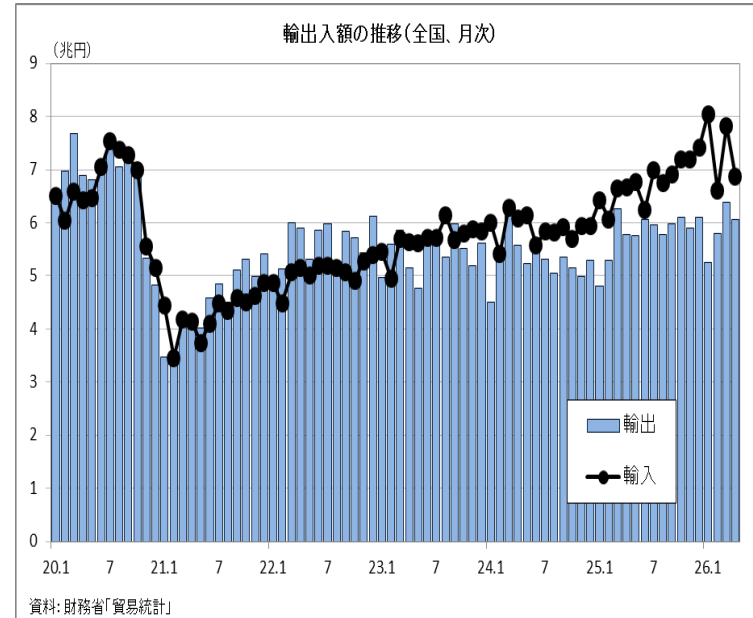


円安・原油高騰による影響について

- ◆円安は101円台で止まりつつあり、上期の想定レートを100円としていたことから昨年ほどの利益確保は見込めない。
- ◆LNG(液化天然ガス)は今年1月の最高値から若干下がっているものの、依然高い状況。為替の影響は燃料の価格高騰と北米を中心とした自動車の輸出が好調であることによる受注増のマイナスとプラスの両面ある。
- ◆この1年間通増を続けたアルミが4月以降高止まりしている。(以上、輸送用機械)
- ◆円安の影響により材料高、特に燃料高が痛い。5月になり落ち着いてきた。(非鉄金属)
- ◆円安が続いており、中国からの国内回帰の現象が自動車部品を中心に拡大している。また、北米への輸出も今後、伸びる見通しを立てている。(生産用機械)
- ◆LPガス燃料費について、値上がり落ち着いた状況であり、5月は前月比8%値下がりした。(金属製品)
- ◆ウクライナ情勢が影響してルーブルが急落し現地価格を値上げしたことにより、ロシアでの売上は落ちている。(刃物)
- ◆原油高、円安や原油高による影響も今のところはない。配送も委託しているが、値上げ等の相談はない。(食品加工)
- ◆プラスチック製品の仕入先から約10%の値上げに加え、紙の原料についても同様の割合で値上げが始まった。(紙)
- ◆電気代が大幅に上昇し、収益率が悪化している。運送費も値上げ要請を受けている。(建材)

アベノミクスの効果・影響について

- ◆健康食品の効果の表示解禁について具体的な制度が示されていないため、業界において未だ効果が出ていない。(食品製造)
- ◆景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆不透明な部分もあるが、緩やかに回復しているのではと感じている。(電気機械)
- ◆経費高といった負の影響を受けているだけといった状況である。
- ◆国内産業の活性化、国内受注がやや回復。(以上、生産用機械)
- ◆アベノミクス効果は特段感じていない。(紙)
- ◆アベノミクス効果は回り回ってあると思う。(木工)
- ◆公共施設の木造化関係の受注が増えているように思う。(木材)
- ◆アベノミクスの効果は感じられない。(商店街)
- ◆製造業の求人が多く、ストアスタッフの採用が難しい。(コンビニ)
- ◆飛騨地域の観光は少し良くなってきている。
- ◆自動車関連などに波及効果が出てきている。(以上、金融機関)



4月からの消費税増税の影響・懸念について

【製造業】

- ◆消費税増税の影響はない。(食品製造・輸送用機械・生産用機械・はん用機械・金属製品・プラスチック)
- ◆消費増税税の影響による国内需要の減を、海外向けの売上でカバーしている。(輸送用機器)
- ◆消費増税の駆け込み需要による反動減を予想したが、5月は4月より受注が増加した。(はん用機械)
- ◆消費増税の反動により、売上は前月比17%減少(プラスチック)

【地場産業】

- ◆消費増税前の駆け込みはなかったが、増税後の消費の冷え込みは表れている。(アパレル)
- ◆4月は消費増税の影響はあまり感じられなかったが、5月に入ってから需要が落ちている感じがする。3月には駆け込み需要があった。(陶磁器)
- ◆駆け込み需要も予測するほどなかったが、その後の売上減少もなかった。(刃物、紙)
- ◆スーパーへ卸している部分では一時期影響が出たが、半月程で元に戻った。(食品加工)

【個人消費】

- ◆駆け込みによる反動から戻りは鈍い。食料品は戻ってきているが、化粧品、家電はまだまだ戻らない。
- ◆客数は前年比87%、客単価は同90%とともに減少。部門別では、衣料品が前年比90%、住環が同85%、食料品が98%とすべて減少。増税の影響は大きく6月になっても前年比まで戻る気配はない。(以上、大型小売店)
- ◆3月の消費増税前の駆け込み需要の反動が4~5月にきている。特に5月は良くなかった。(運輸)
- ◆5月は売上が減少。受注も減っている。消費増税前の駆け込み需要の反動がある。(製材)
- ◆消費増税の影響はあまり感じられない。
- ◆全体的に消費増税の影響で消費が控えられている感がある。(以上、商店街)
- ◆タバコは3月のまとめ買いの反動で4月は1店当たりの日販は前年比80%台。5月は影響が和らいだものの、同90%台。食品類、中でも中食商品は4月に入っても前年をやや上回っており、影響はあまりない。(コンビニ)

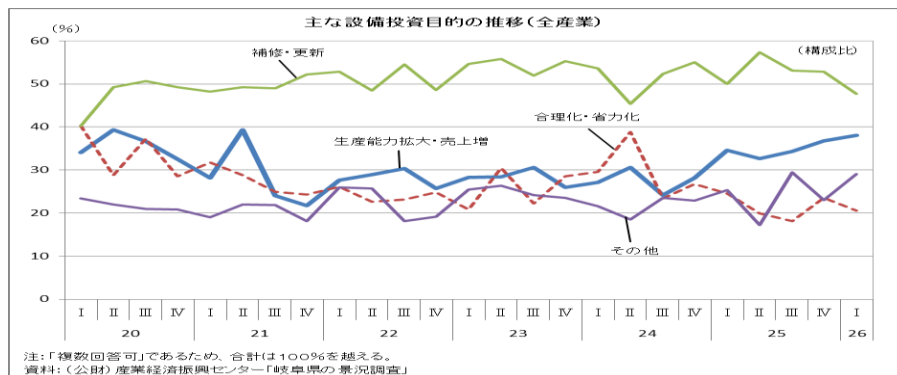
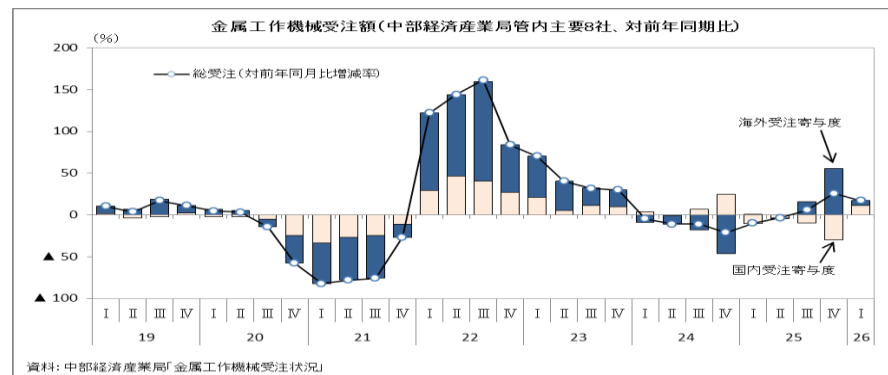
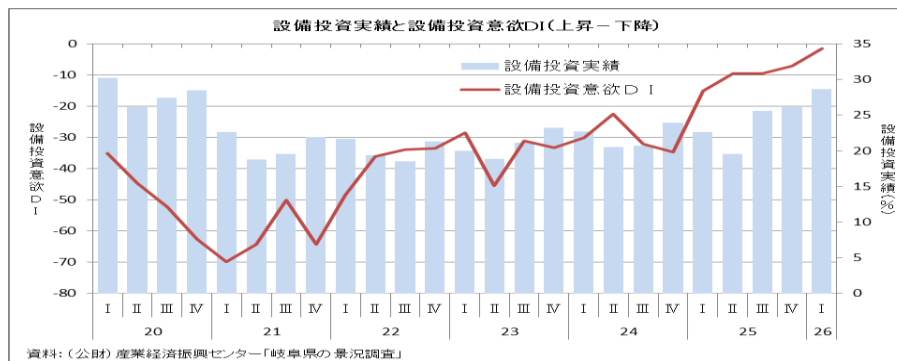
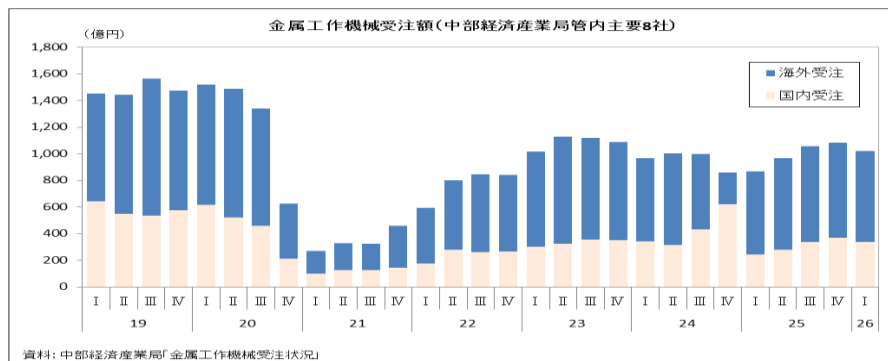
【その他】

- ◆各業態とも、消費増税による駆け込み需要の反動も想定より小さく推移している様子。(人材派遣)
- ◆売上が減少している企業もあるが、夏場には回復してくると思われる。(金融)

設備投資

- 生産用機械の受注額は、国内、海外ともに受注が増加し、3期連続でプラスとなった。
- 設備投資意欲DIが改善し、投資実績も増加。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加している。



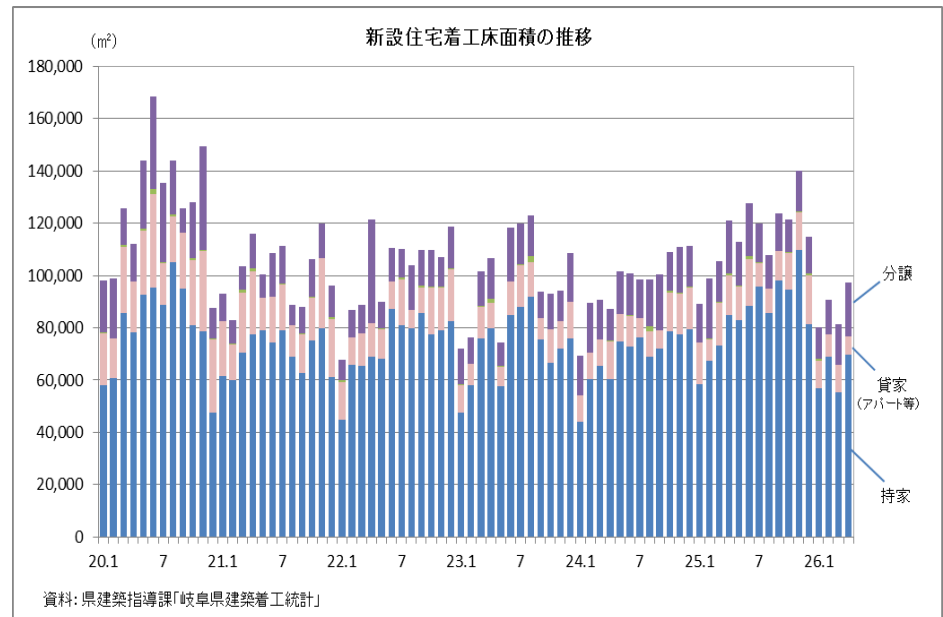
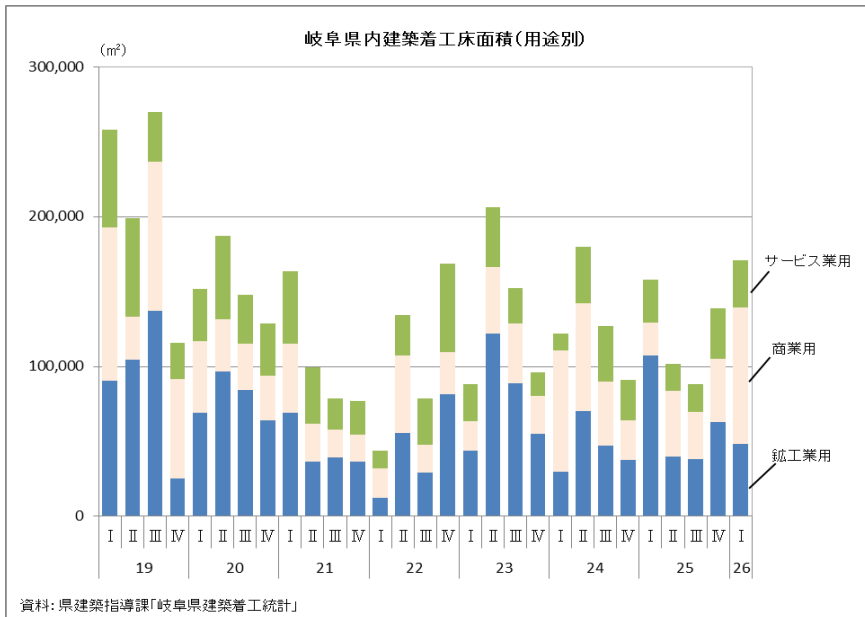
現場の動き

- ◆自動車関連が比較的好調のため、工具類の生産が活況を呈し始めており、これに伴う工具関連の工作機械の引き合いは持ち直しの傾向が見られ始めてきている。一方、電子・精密金型関連ユーザーの設備投資の引き合いはまだみだである。(生産用機械)
- ◆CVT組み立てラインのメイン組み立てにおいて、自動化設備を導入し稼働開始した。(はん用機械)
- ◆医療、福祉等の設備投資が増えている。(金融機関)

住宅・建築投資

○26年1-3月期の建築着工は、商業用で大きく増加したものの、鉱工業用、サービス業用で減少したことにより、全体では前年同期比0.8%減となった。

○4月の住宅着工は、分譲が増加したものの、持ち家、貸家が大きく減少したことにより、全体では前年同月比19.4%減と4ヶ月連続で前年を下回った。



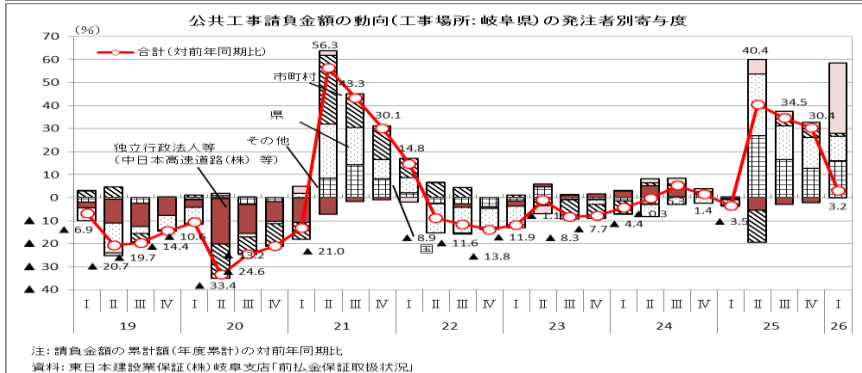
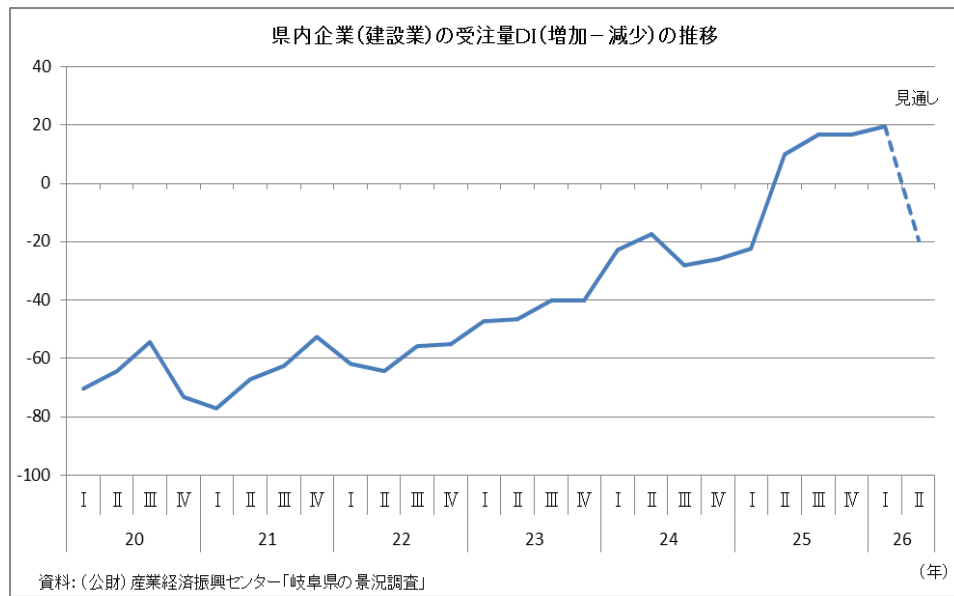
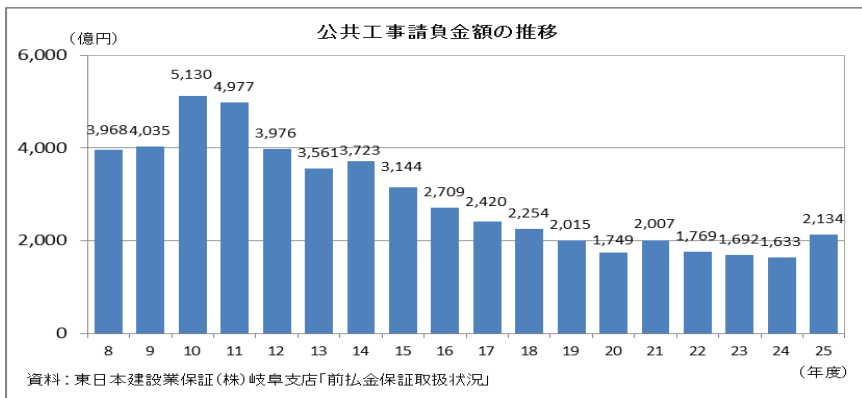
現場の動き

- ◆新築住宅の契約は全体的によくはない。リフォームは落ち込みが少ない。(住宅建設)
- ◆消費増税による駆け込み需要はあったが、4~5月は受注は落ち込んでいない。6月以降は厳しい。(製材)
- ◆5月の受注量は前月比5%減であり、主要因は消費増税の影響と思われる。6月の受注量は10%減とさらなる減少が見込まれる。(建材)
- ◆スギは値をキープしたが、ヒノキは土台・柱材が値下がり、今後も下がる予測。(国産材市場)
- ◆製材品価格が下がり始めており、消費増税前の駆け込み需要の反動の影響かもしれない。(森林組合連合会)

公共工事

○25年度内に県内で実施された公共工事請負金額は2,134億円と回復。

○26年1-3月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比30.6%増と4期連続で前年同期の水準を上回った。

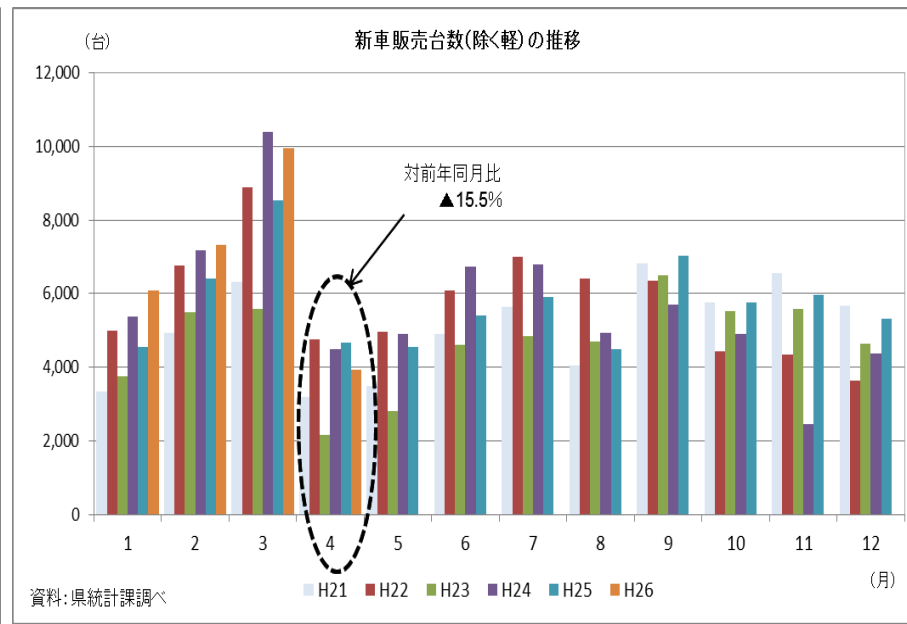
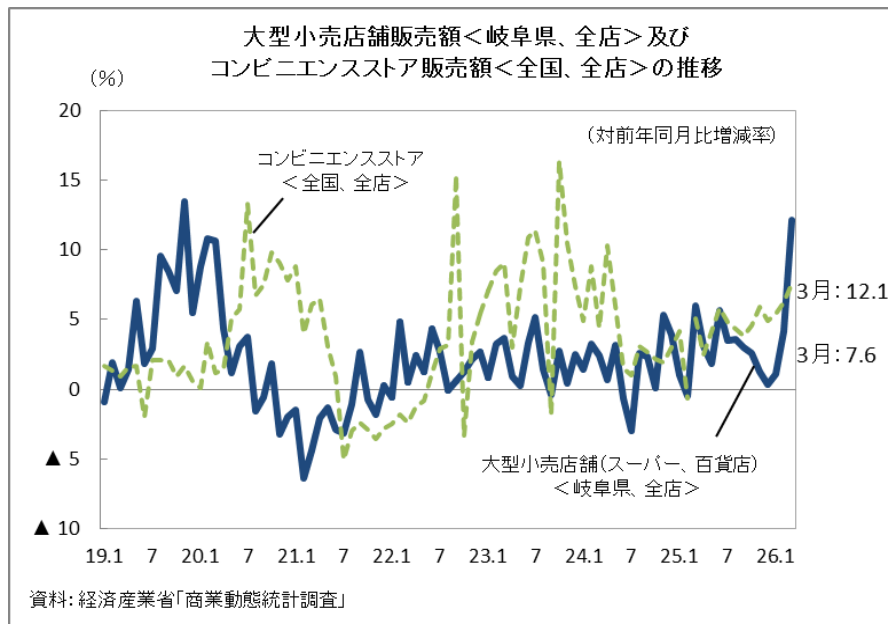


現場の動き

- ◆公共工事の受発注量としては、昨年度並みで手持ち工事量としては多くはない。また、民間工事においても、工事規模の大小問わず、手持ち工事量としてはやや少なめで消費税増税後は暫く、発注控えの感がある。(業界団体)
- ◆4~6月は公共工事が少ないため、売上、受注が少ない傾向にある。(運輸)

個人消費(流通・小売)

- 3月の大型小売店販売額は、対前年同月比12.1%増と11ヶ月連続で前年を上回った。
- 4月の自動車販売は前年同期比15.5%減となった。

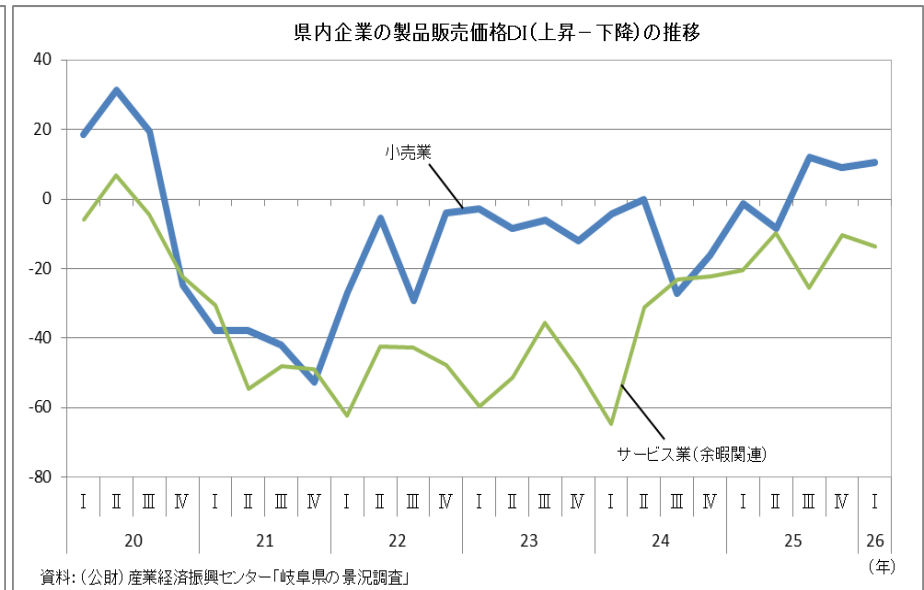
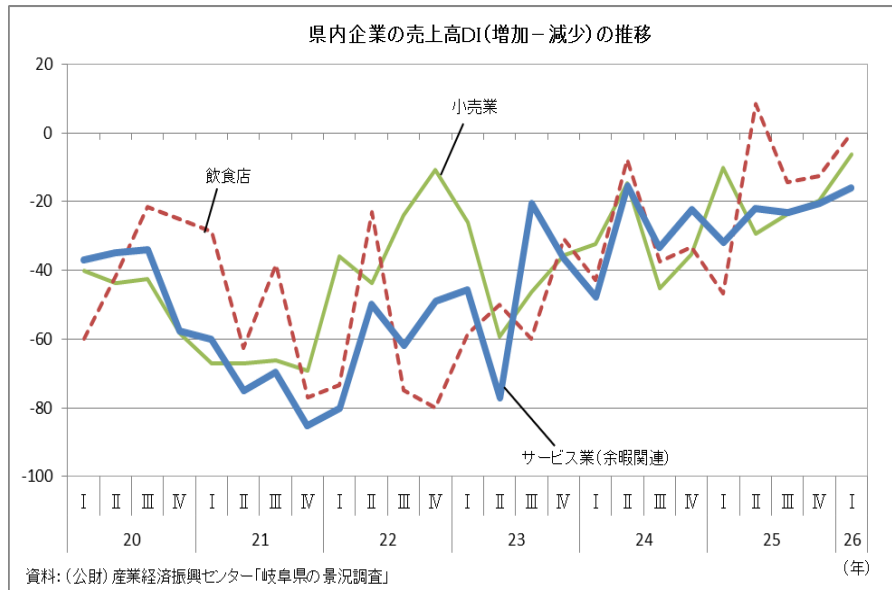


現場の動き

- ◆来場者数は前年並みである。売上は飲食店1割減、全館でも1割減である。駆け込み需要による反動が原因。
- ◆5月はリニューアルオープンの効果もあり、売上、客数ともに前年比110%、テナント売上が前年比120%と好調であった。天候不順により衣料は不調であった。(以上、大型小売店)
- ◆受注車数は1割減と想定内の落ち込みである。そのかわり整備台数は2割増であった。(自動車)
- ◆客数は減少しているが、購入単価が上昇している。全体の売上としては、対前年比95%程度である。生鮮食品は買い溜めすることができないため、例年並みの売上である。(食品スーパー)
- ◆5月に入ってから順調に売上も推移している。消費増税の影響で、ゴルフ用品等一部の高額商品については上がっていないが、全体としては想定内の売り上げである。(スポーツ用品)
- ◆4月の売上は対前年比80%程度、5月は同90~95%の見込みであり、少し盛り返している。(家電)

個人消費(流通・小売)－2

○平成26年1－3月期の小売業については売上高、販売価格ともに増加。サービス業については売上高は増加したが、販売価格は減少。



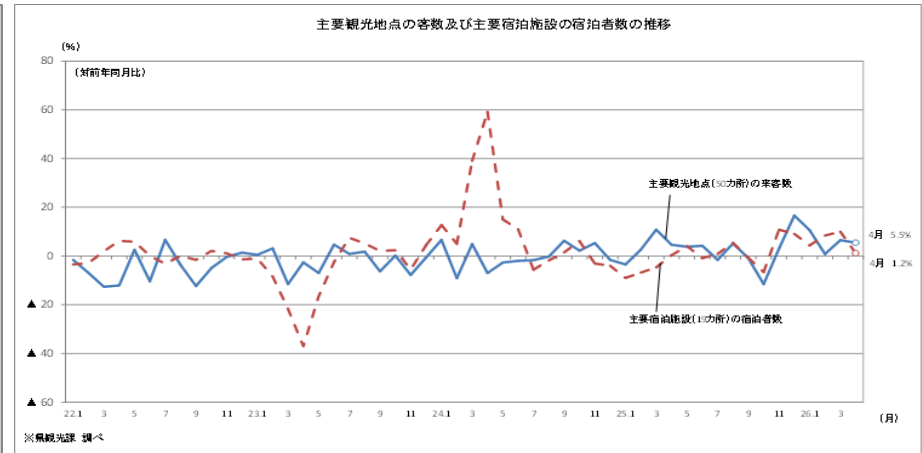
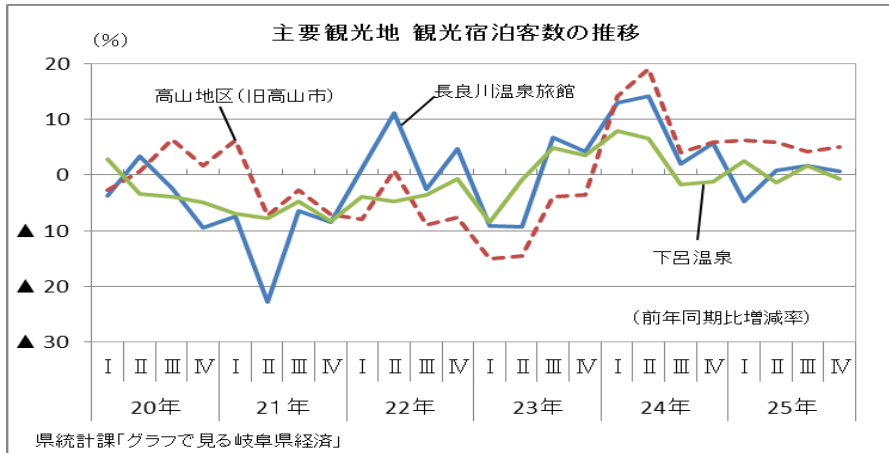
現場の動き

- ◆5月の売上は、婦人服、飲食店ともに前年同月比100%。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆元気ハツラツ市や大垣祭りがあり、前半は人出が多かったが、後半が淋しい。
- ◆5月の売上は、ブティックが前年同月比80%、和菓子店が同100%。(以上、大垣市商店街)
- ◆5月の売上は、お土産・雑貨店が前年同月比100%、衣料品店は微減。(以上、高山市商店街)
- ◆5月の売上は、酒類が前年同月比微増、子ども服は微減。(多治見市商店街)
- ◆物販は、業種にかかわらず売上、レジ客数ともに前年同月比で減となった。飲食も、売上、レジ客数ともに前年同月比で減となった。(アクティブG)
- ◆5月の1日あたり1店舗平均売上は前年比97.0%、同客数は前年比98.5%。(コンビニ)
- ◆売上、受注件数の落ち込みはない。
- ◆売上、受注件数は前年同月比で若干減少。消費増税の影響は今のところ感じていない。(以上、運輸業)

観光

○平成25年10－12月期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比0.6%、高山地区(旧高山市)が5.0%と増加したが、下呂温泉は0.7%減少した。

○主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比5.5%増と6ヶ月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同1.2%増と6ヶ月連続で前年を上回った。

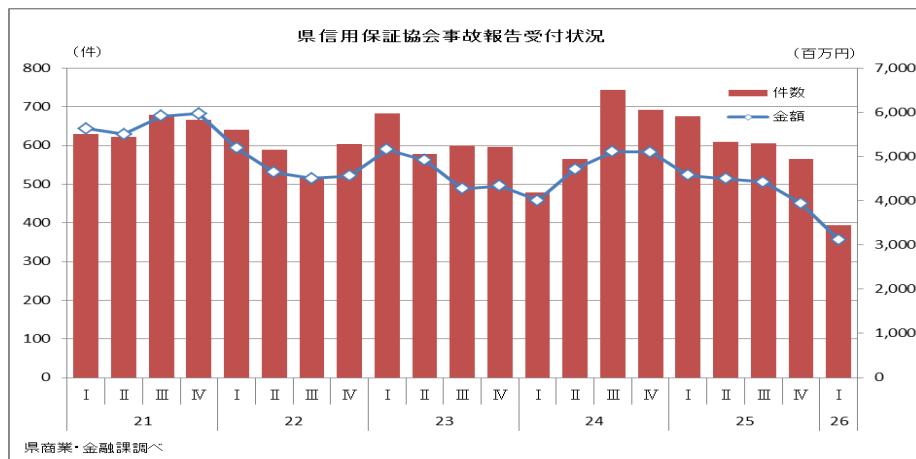
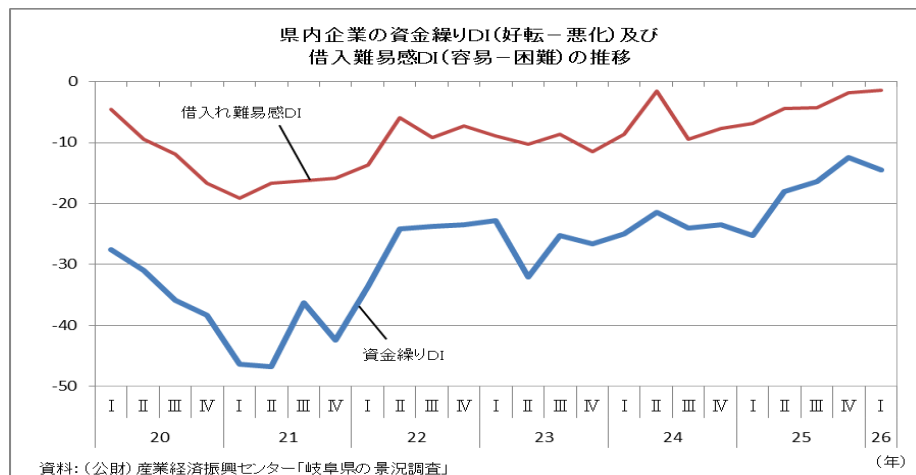
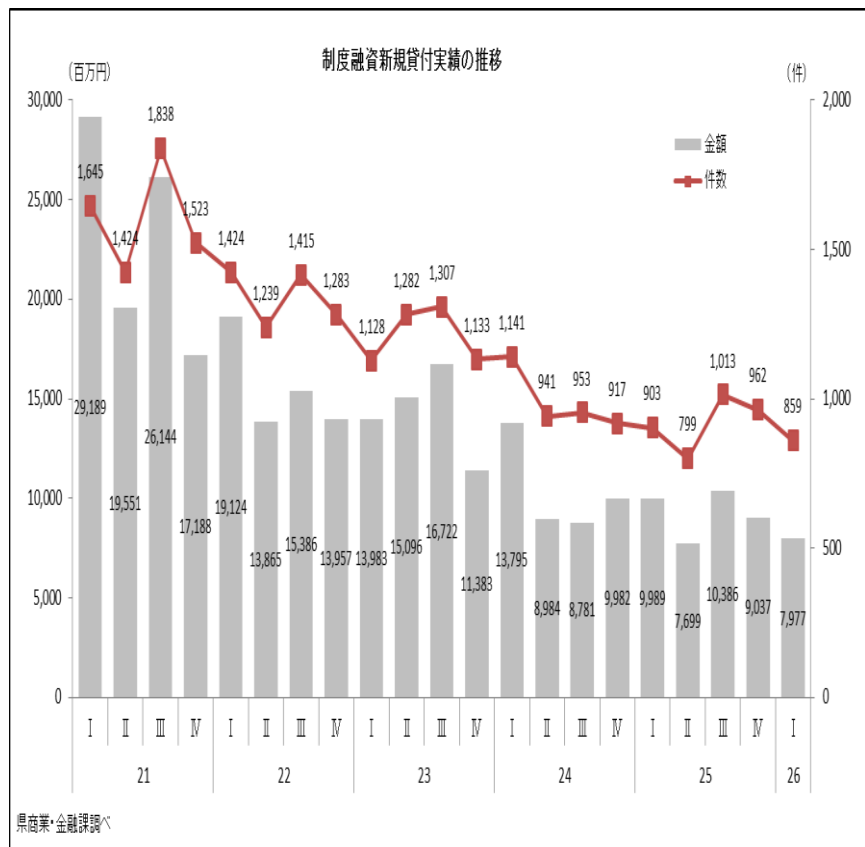


現場の動き

- ◆施設によってバラつきはあるものの、トータルで見た宿泊客数は消費税増税の影響も限定的で、概ね前年並み確保した模様。インバウンドは台湾やタイ、マレーシアなどが引き続き好調。(宿泊施設の総括)
- ◆5月は学会やぎふ清流マラソン関係、インバウンドツアーの利用が多かった。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆5月は企業関係の団体客の連泊があり好調。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆消費税増税の影響はあまり見受けられない。(岐阜市内、高山市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドはタイや台湾などが大幅に増加し、総じて好調。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは立山・黒部アルペンルートの影響が大きく、好調な動き。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆台湾、タイ、マレーシアが牽引し、前年の倍くらいの水準になっている。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは高山市全体が大幅に増加している模様。
- ◆国内需要の伸び悩みをインバウンドがカバーしている状態。(以上、高山市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 資金繰りについては回復基調に一服感があるが、借入難易度は緩やかに改善している。

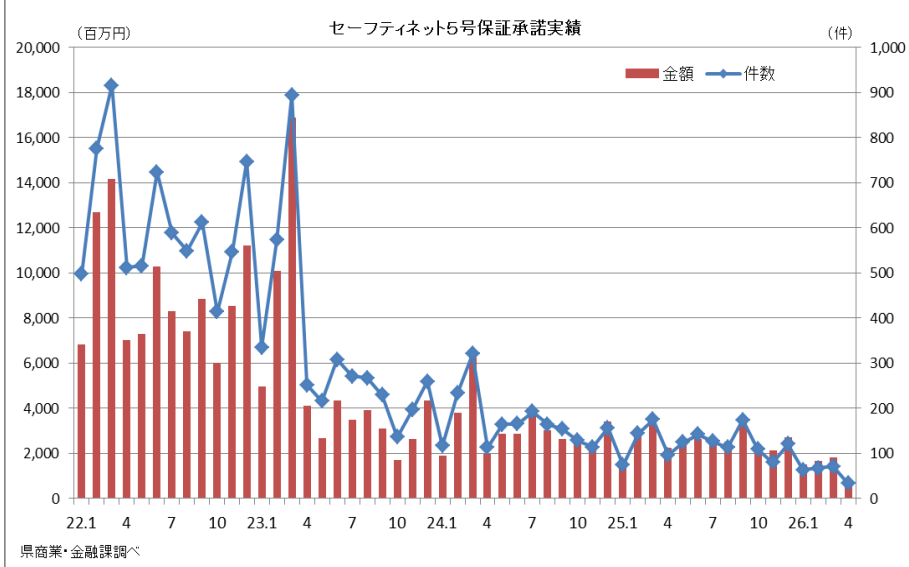
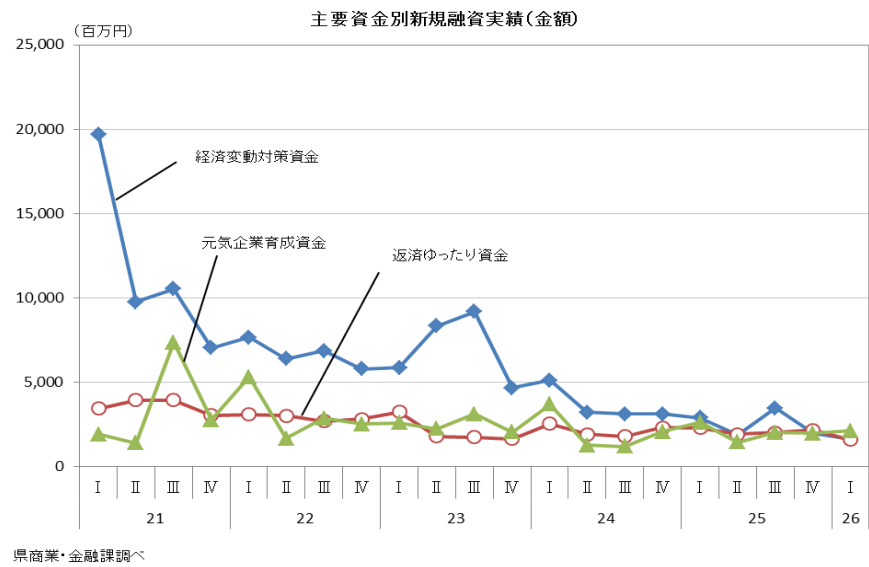


現場の動き

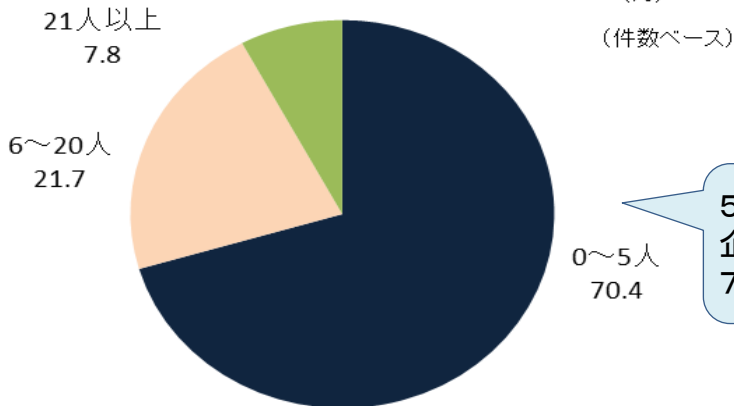
- ◆自己資金で賄えているせいか運転資金は減ってきているが、設備資金は増えている。
- ◆全般的に各企業の売上が伸びており、それに伴う資金需要が出てくる予兆はある。(以上、金融機関)

資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が7割を占める。

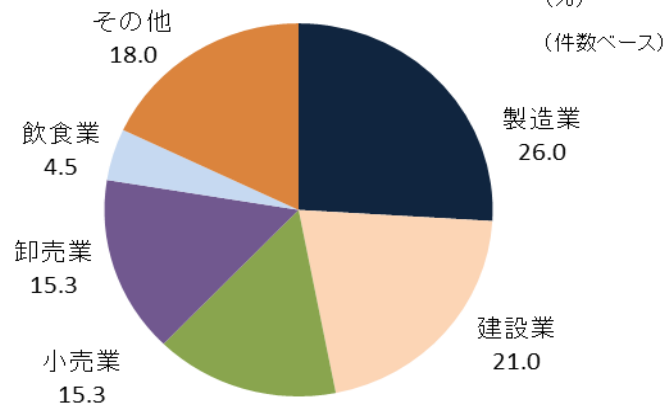


県制度融資 利用企業規模別割合
(H25年4—H26年3月計)



5名以下の零細企業の利用が7割を占める

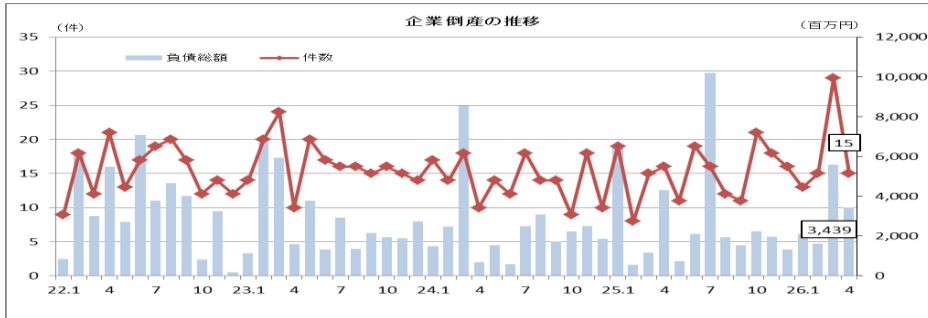
特別経済対策資金 利用企業規模別割合
(H25年4—H26年3月計)



倒産

- 平成26年4月の倒産件数は前年同月比1件減、前月比14件減の15件となった。
- 平成25年の倒産件数は182件となり、前年から14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

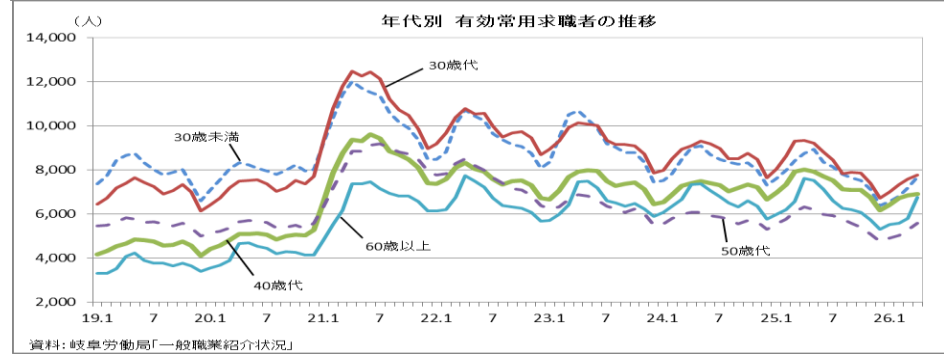
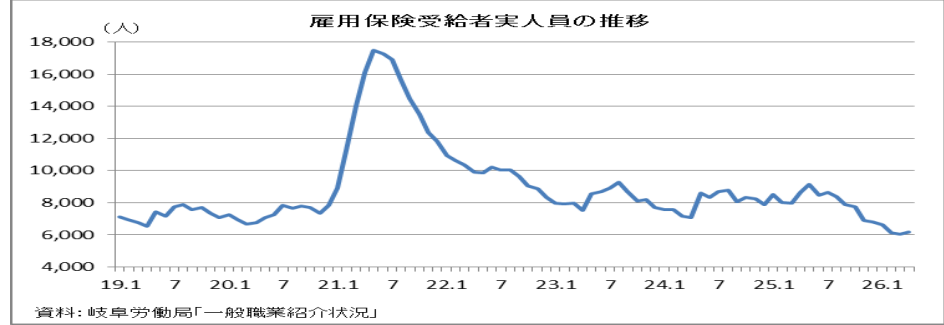
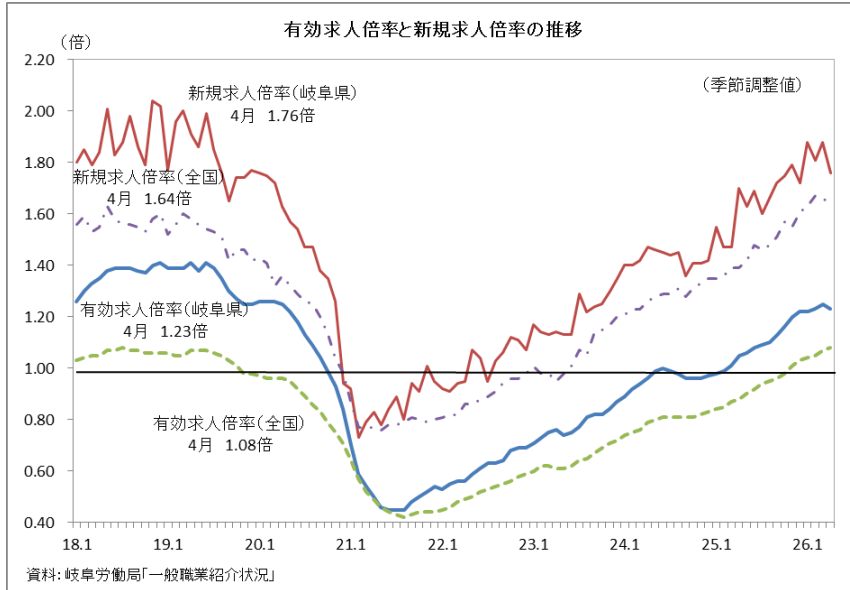
- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



雇用

○4月の有効求人倍率は1.23倍と前月より0.02ポイント低下。また、新規求人倍率は1.76倍と前月より0.12ポイント低下。

○4月の雇用保険受給者人員は6,183人と前年同月と比べて28.4%減と10ヶ月連続で減少。

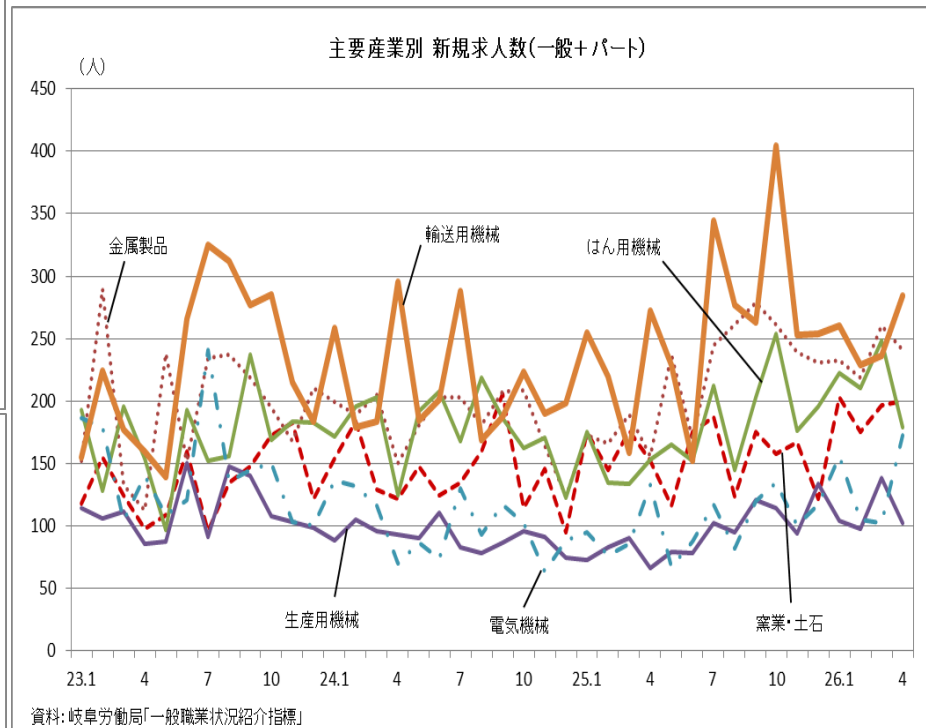
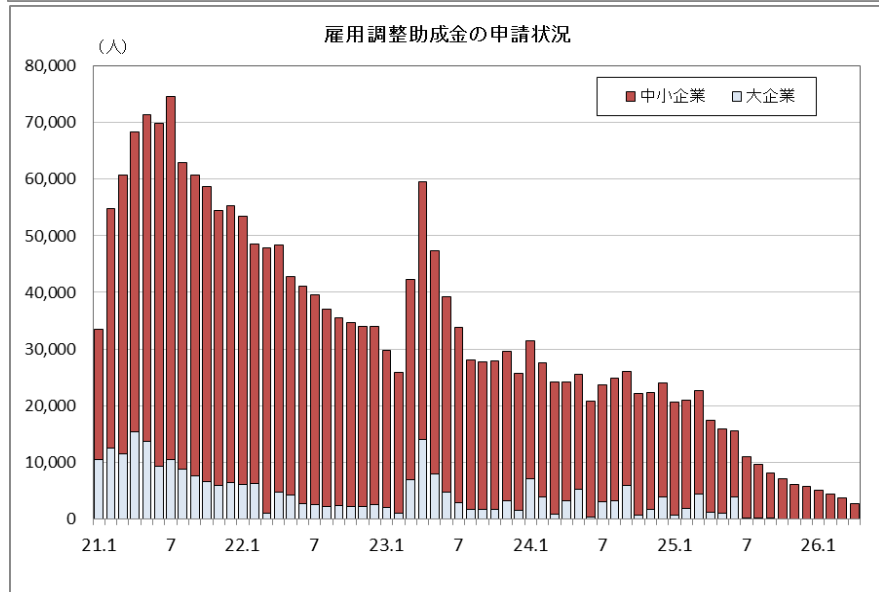
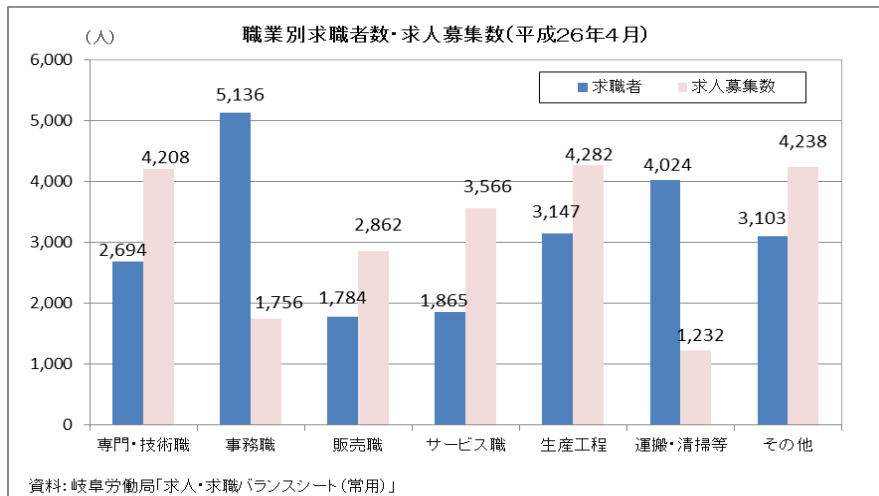


現場の動き

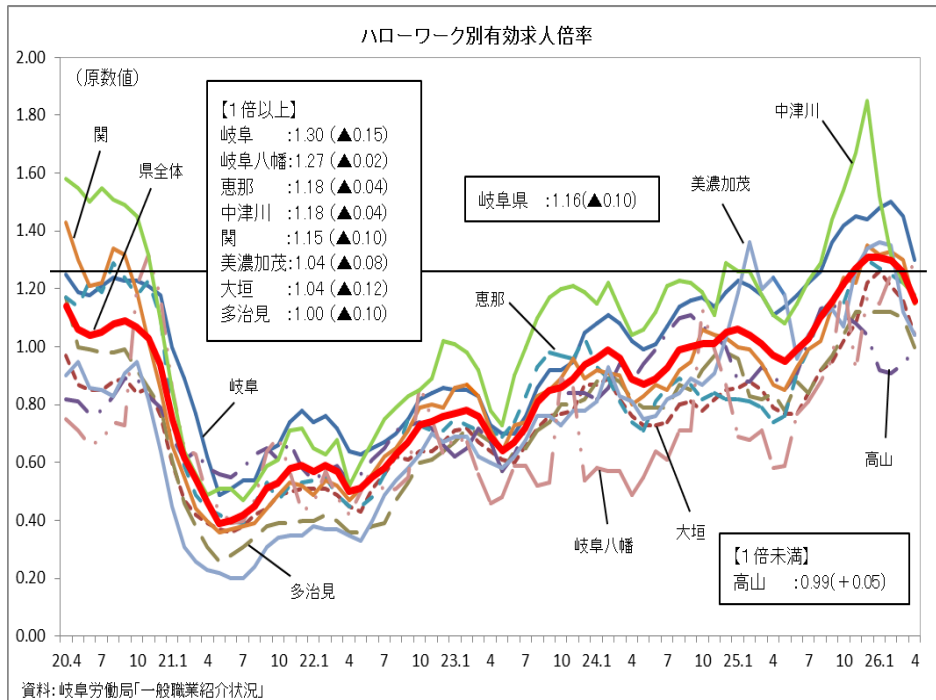
- ◆パート社員は需給バランスが取れている。正社員については適合する応募が少なく苦戦している。(食品製造)
- ◆引き続き経験者を採用しようとしている。互いの希望が合うような人をじっくり探していきたい。
- ◆6月も横ばいの予測で、非正規従業員の手配を継続中。(以上、輸送用機械)
- ◆現在は派遣会社に中途採用の募集を行っている。(金属製品)
- ◆ジョブカード制度を利用して雇用している。(紙) ◆運転手の確保が難しい。(運輸)
- ◆新卒・第2新卒での派遣登録も多くなってきており、専門知識や経験を持った人材の不足感は否めない。
- ◆求職者がいくつも仕事を掛け持ち検討するため、条件のより良い仕事を吟味する傾向にある。
- ◆市場人材不足は進んでおり、求人と求職のバランスは崩れている。(以上、人材派遣会社)

雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい状況が続いている。
- 新規求人は電気機械を除く主な産業すべてで増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



雇用(地域別)



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

<窓口の様子>

- ◆中津川を除き、先月と比べて同じかやや空いている。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

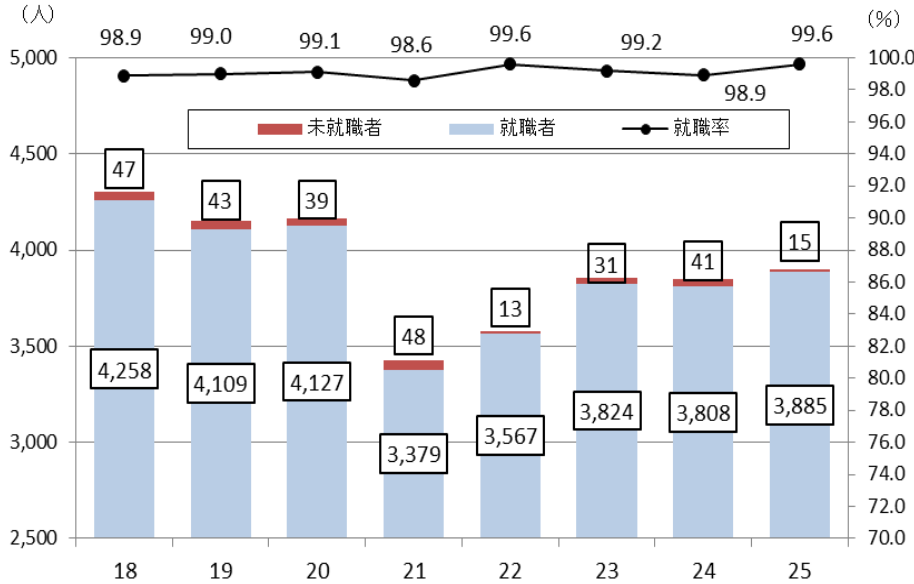
<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

雇 用(高校新卒者の就職)

○平成25年度の高校卒業者の就職率は0.7ポイント上昇し、平成22年度の水準まで回復。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)

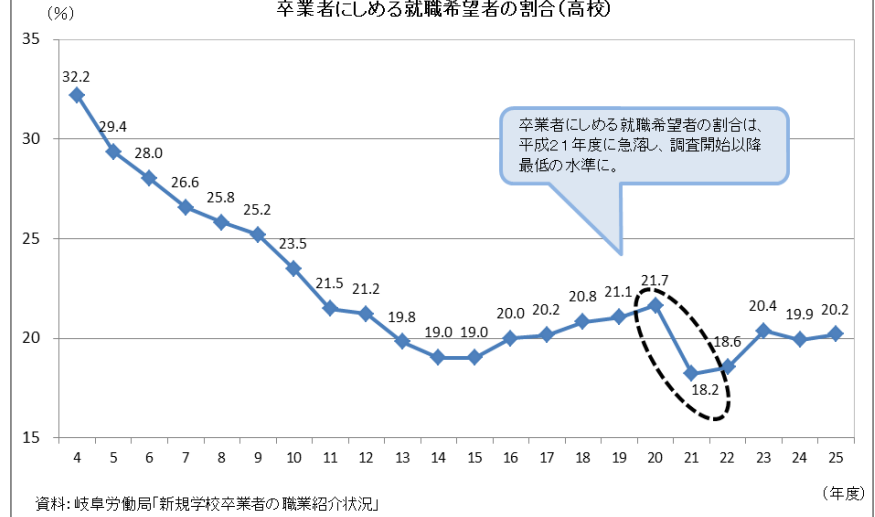


資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

現場の動き(内定状況)

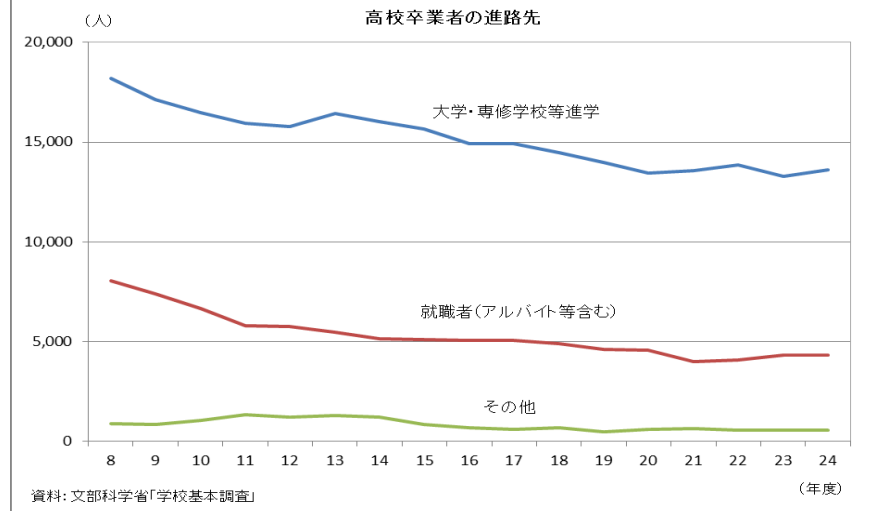
- <ハローワーク岐阜、多治見、高山>
◆高校卒業者の内定は増加。
- <ハローワーク大垣、関、岐阜八幡、美濃加茂>
◆高校卒業者の内定は横ばい。
- <ハローワーク恵那、中津川>
◆高校卒業者の内定は減少。

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

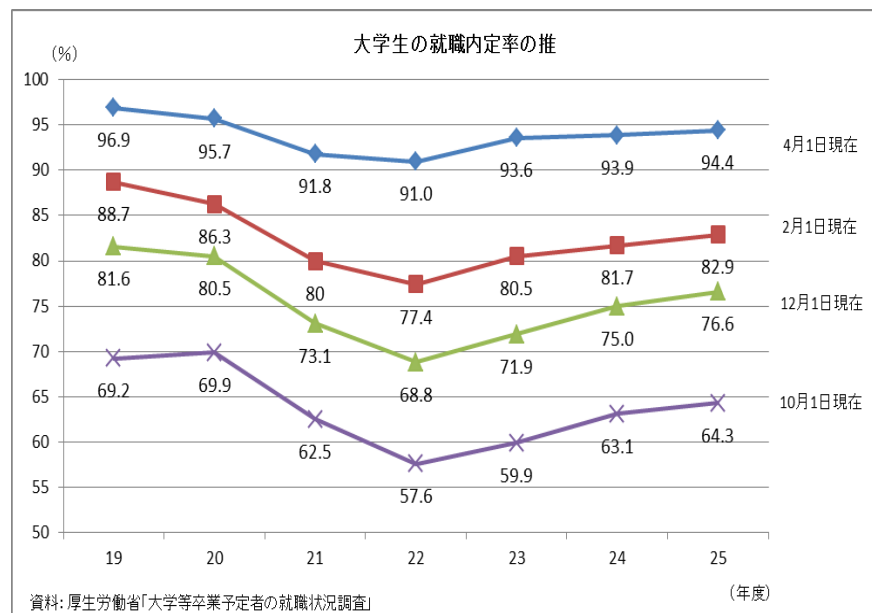
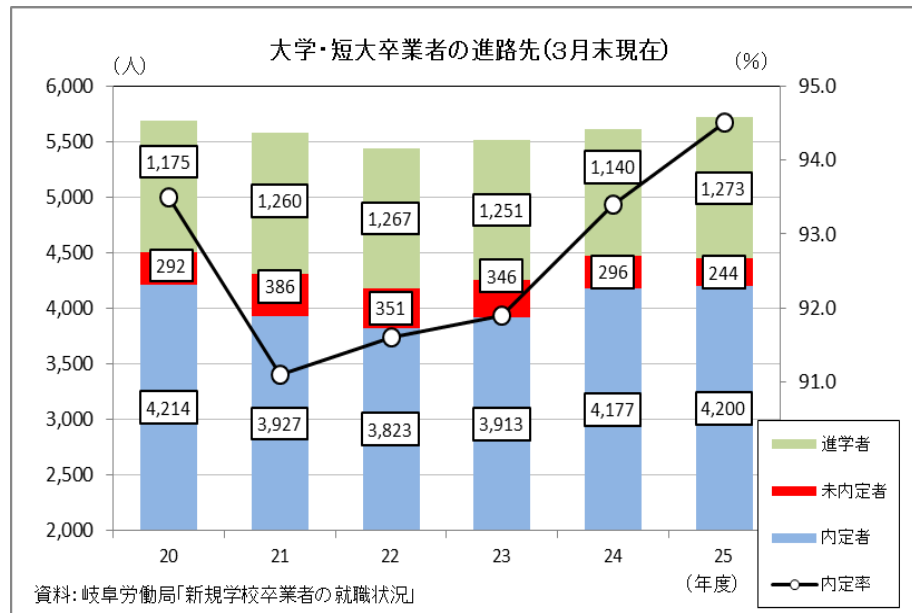
高校卒業者の進路先



資料: 文部科学省「学校基本調査」

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○平成25年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの兆しを感じられ、全国では過去5年間に於いて、岐阜県は過去6年間に於いて最も高くなった。また、岐阜県は全国と同水準まで改善。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

- ・2015年卒の就活状況は昨年比、上回る内定状況で複数内定を得ている学生の相談や選考中の面接対策が増加。
- ・2015年卒の就活状況は内定報告もあるが、結果が出なかった学生の相談もある。企業も6月から第2採用活動再開。
- ・2015年卒の就活状況は昨年比、横ばい。求人数増加しているが結果が出ず、企業の厳選採用の姿勢維持が伺える。

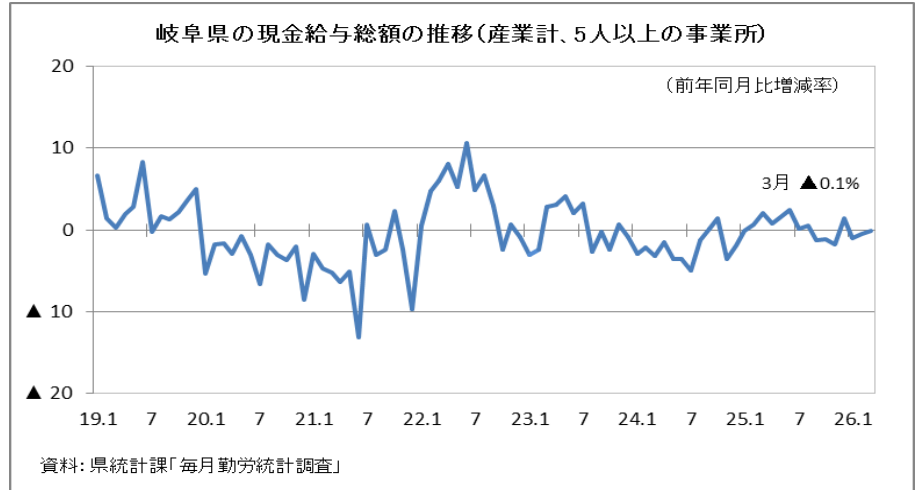
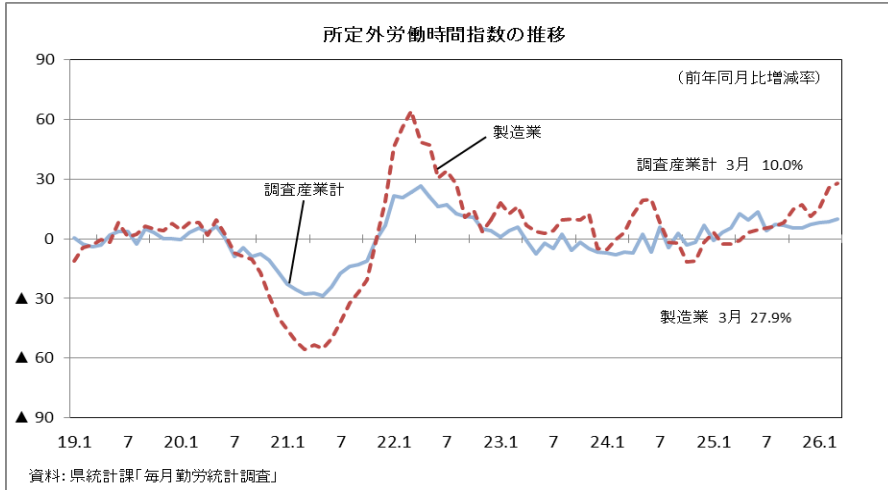
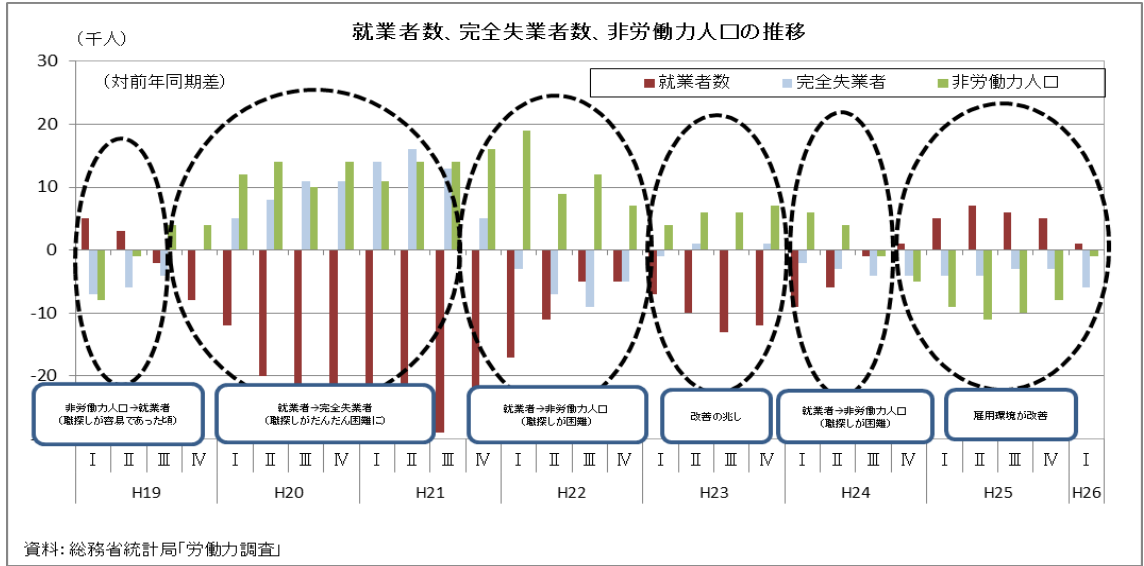
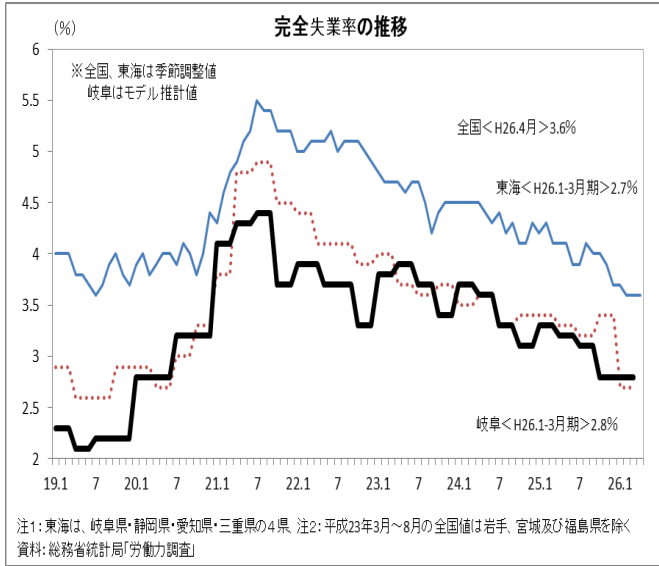
【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の最終内定率は97%で昨年より上昇。15年卒は、昨年と比べると出足が良く、複数内定者が多い。
- ・2014年卒の最終内定率は97%。15年卒は、内定状況も昨年より早めの状況。
- ・2014年卒の最終内定率は98%。15年卒は、300名弱の進路決定届が出ている。大手企業からの内定が目立つ。

雇用(完全失業率)

○平成26年1-3月期の完全失業率は2.8%と前期比横ばい。

○平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上が増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く、利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により好調な状況が続いているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、消費増税の駆け込み需要の反動が見られ、食料品は回復基調にあるが、それ以外については想定より回復がやや緩やかな状況にある。家電については、少しずつだが盛り返しを見せている。衣料品については天候の影響もあり低調。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの宿泊客総数は概ね前年並みを確保した模様。インバウンドは台湾やタイ、マレーシアなどが引き続き好調。
- 雇用面では、特に、製造業で、生産量の増加に伴い人材の確保に努める企業が多数見受けられる。新規学卒者の就職率は最近6年間で最高値まで上昇した。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然低調だが下げ止まりの兆しが見られる。